



子供と遊びと「もったいない」について

■ 久保田 雅人

はじめまして、久保田雅人と申します。というより、「わくわくさん」の方が分かりやすいと思います。NHKの工作番組「つくってあそぼ」でわくわくさんとしてさまざまな工作をご紹介しますとともに全国各地で工作教室を行っております。番組をご覧になった方はお分かりだと思いますが、NHKでも「昭和の臭いのする最後の番組」と言われておりました（笑）。IT文化真っ盛りの現代社会において昭和の臭いがプンプンする工作を紹介し続けていたわけです。

そんな中で感じた「子供たちの遊びと生活」についてお話しさせていただきます。現在、子供たちが遊ぶおもちゃはゲームなどが主流となり、親もそういったものさえ与えていれば大丈夫と考えていますねえ。流行とだけでは言いきれない、「これが当たり前」という社会の流れがあります。そんな時代ではありますが、私が思うには「子供の遊びには今も昔もない」ということです。新聞紙をビリビリ破くだけで作れるジグソーパズルに新聞紙を丸めただけの棒は刀になり鉄砲になる工作に子供たちは目を輝かせて見つめ大いに笑ってくれます。ゲームも好きだけど、昔から綿々と続く折り紙に同じ質と興味を持っているわけです。

でも問題は、これらの昔からの遊びと日本人が持っているものに対する考え方を伝えられるのかという点にあります。若い親御さんは、これらの遊びの経験が少ないので自分の子供に伝えることができないのも事実です。昔ながらの遊びを憶えているのがお年寄りですが、

■久保田 雅人
タレント

1961年生まれ。社会科教員免許取得。1989年から23年間、NHKEテレ「つくってあそぼ」のわくわくさん役で出演。また、全国の幼稚園、学校を回り工作教室等や大人向けの研修会を展開中。



そういった方々と子供たちが遊ぶ機会が著しく減っているのも事実です。子供たちに教えたいのが、自分の手で何かを生み出すということです。そして、自分で生み出したものですから自分で修理ができるということです。壊れたら直して使うことを教えなすぎます。「もったいない」という言葉だけを教えるがごときの風潮にいら立ちさえ覚えます。「もったいない」を教える前に「ものを使い切る」ということを教えなければいけないのです。自分で何度も修理をして、とことん使い切ってから捨てるのが当たり前前の生活をしていたお年寄りだからこそお年寄りが言う「もったいない」という言葉に重みがあったのです。そうしたことを実生活の中で経験させず、言葉だけで教える風潮が嫌なのです。

さらに問題となるのが、今身の回りにあるものに修理できないものが多いということ。子供たちが遊ぶゲームが壊れても自分はもちろん親だって修理ができない。そうすると、そのまま捨てることが多いのも事実です。遊び道具だけでなく身の回りのほとんどのものが修理がしづらい、できないものが本当に多いです。そんな生活の中で育つ子供たちにどうやってものの大切さを伝えるか、皆さんもどうか考えてください。

便利さだけの追及がすべてではないのです。面倒でも自分の手で生み出すことの重要性を子供に伝えましょう。

